

八朔相撲をご存じですか？

2024年 10月8日 柏市立富勢小学校 校長 梅津 健志

先日の日曜日に（土曜雨天順延）八朔相撲という地域行事が行われました。今年富勢小からは6名の出場希望があり、日程が変更になった関係で3名が出場をして、総当たり戦で勝ち越してきたようです。この八朔相撲という行事をみなさんご存じでしょうか？

私も富勢には八朔相撲という伝統行事があることは伺っておりましたが、歴史を紐解いてみると、徳川吉宗の時代、享保9年（1724年）に始められたようで、300年の歴史がある、江戸時代から続いている五穀豊穡を願う神事として、旧暦の8月1日（朔日）に行われる地域行事として親しまれてきたようです。富勢地域に住んでいる方ならば、みなさん知っている行事だったのです。

昭和の中頃までは、若者たち（10代後半から20代前半）の力比べの場であったようで、この行事を行うための費用をまかなうための田んぼも用意され、地域をあげての行事だったようです。しかし、高度成長期に入るところから生活スタイルが変化してきました。高校・大学への進学、農業から会社や役所勤めに就職先が変わるなど、昭和30年代に入ると1950年代の後半からの大きな社会変革に、この伝統行事はついていけなくなったようでした。1961年（昭和36年）から1995年（平成7年）までの34年間、八朔相撲は中断されていたようですが、1995年に小学生が参加する形の行事として、富勢地域の20を数える自治会の支援と学校の先生方の支援により復活したようです。各学校では、八朔相撲に向けて準備や練習をして備えていたようで、平成の終わりには参加する子どもが100名を超え、小学校3校の団体戦も行われ、午後2時過ぎまで行われるような盛大なものだったようです。

しかし、コロナによる3年間の中断により、昨年4年ぶりに復活をしたのですが、急激に認知度が低下し、今年のエントリーは25名程度となってしまいました。子どもたちの遊びの中に相撲という遊びの種類が無くなってきていることや、保護者世代も相撲への関心が低くなっていることなどが、要因となっていると考えています。今年は3校からお手伝いボランティアで先生方10名ほどに参加してもらい、来年は地域から子どもたちに八朔相撲の話や相撲自体を教えることをしていただき、（相撲を教えられる先生はいない）人の交流を通しながらこの伝統行事をつなげていこうと考えています。保護者のみなさんからも、子ども好きや相撲好きという共通点で、300年続く地域行事を、今に合う形でつなぎ歴史を作ってください方が出てくださることを期待します。子どもは結構いい取り組みをしますよ。